

## [12] 九州大学農学部農場研究資料表紙総括等

<https://hdl.handle.net/2324/12567>

---

出版情報：九州大学農学部農場研究資料. 12, 1990-03. 九州大学農学部附属農場  
バージョン：  
権利関係：

# 昨年度事業の総括

## 昭和63年度農畜産物生産実績

品目	作物	機械	果樹	施設園芸	畜産	研究部長
玄米	17,520 kg					
混合米	1,080 ㍴					
屑米	1,325 ㍴					
小麦	4,140 ㍴	1,080 kg				
ダイズ	540 ㍴					
アズキ	60 ㍴					
クロマメ	37 ㍴					
ジャガイモ	140 ㍴					
タマネギ	620 ㍴					
トウモロコシ	50 ㍴					
早生温州			18,370 kg			
巨峰			508 ㍴			
マスカットベリーA			1,175 ㍴			
ウメ			180 ㍴			
ナシ			256 ㍴			
リンゴ			257 ㍴			
キュウリ				6,240 kg		
温室メロン				1,753 個		
セルリー				2,840 kg		
サツマイモ				138 ㍴		
シクラメン				728 鉢		
鉢物				296 ㍴		
牛乳					66,456 kg	
バタ-					27 個	
卵					42.7 kg	
肉牛及び廃牛					7 頭	
山羊					22 ㍴	
カボチャ						51 個

# 昭和63年度農畜産物収入実績

単位；千円

品目	作物	機械	果樹	施設園芸	畜産	研究部長	計
玄米	4,224			38			4,262
混合米	247						247
屑米	106						106
小麦	512	14					526
ダイズ	34						34
アズキ	36						36
クロマメ	22						22
ジャガイモ	14						14
タマネギ	41						41
トウモロコシ	0						0
早生温州			1,587				1,587
巨峰			227				227
マスカットベリーA			253				253
ウメ			55				55
ナシ			36				36
リンゴ			39				39
キュウリ				701			701
温室メロン				1,074			1,074
セルリー				382			382
サツマイモ				9			9
シクラメン				624			624
鉢物				208			208
牛乳					6,280		6,280
バター					6		6
卵					5		5
肉牛及び廃牛					2,549		2,549
山羊					310		310
その他			24			6	30
計	5,236	14	2,221	3,036	9,150	6	19,663

## 昭和63年度学内公費移算実績(施設園芸)

単位；千円

大 小 さい	貸 鉢			計
	大 鉢	中 鉢	小 鉢	
数 量	240	828	1,020	2,088
金 額	360	828	510	1,698

## 昭和63年度経営支出実績

単位；千円

費 目	作 物	機 械	果 樹	施設園芸	畜 産	計
種 苗 費	53	—	—	89	100	242
肥 料 費	551	53	140	89	—	833
農 業 薬 剤 費	351	188	182	181	71	973
光 熱 動 力 費	41	225	267	3	140	676
そ の 他 の 諸 材 料 費	416	256	206	871	432	2,181
水 利 費	—	—	—	—	—	—
賃 借 量 及 び 料 費	—	—	—	—	686	686
飼 料 費	—	—	—	—	2,864	2,864
獣 医 師 料 及 び 医 薬 品	—	—	—	—	660	660
建 物 及 び 土 地 改 良 費	—	11	1,372	—	—	1,383
農 機 具 費	1,686	674	2,849	291	148	5,648
雇 用 費	—	—	2,118	1,488	—	3,606
そ の 他 費	92	73	—	9	—	174
計	3,190	1,480	7,134	3,021	5,101	19,926

# 作物研究室

## 1 昨年度の収支実績

品目	第1表 収入実績				第2表 支出実績	
	生産量 (kg)		生産額 (千円)		費目	金額 (千円)
	実績	計画	実績	計画		
玄米	17,520	16,800	4,224	4,872	種苗費	53
混合米	1,080	720	247	115	肥料費	551
屑米	1,325	750	106	45	農薬費	351
小麦	4,140	2,400	512	408	燃料費	41
大豆	540	200	34	52	農機具費	1,686
小豆	60	30	36	15	諸材料費	416
黒豆	37	30	22	15	その他	92
ジャガイモ	140	400	14	32		
玉葱	620	150	41	7		
トウモロコシ	50	0	0	12		
計			5,296	5,564	計	3,190

## 2 生産概況

- 1) 水稻：7月中旬以降8月中旬までと、9月上旬の多雨・寡照・低温により、分蘖および一穂粒数の減少と出穂期の遅延が見られたが、登熟中・後期の好天により登熟歩合が向上した。その結果、収量は計画を約5%上回ったが、モミスリ機の不調により約半分量が等外となった。
- 2) 小麦：ニセカゼコムギとツクシコムギ。収量は計画を大幅に上回ったが、収穫前の強風雨による倒伏のため穂発芽が発生し、品質低下を招いた。
- 3) 豆類：ダイズは、反収では平年並みであった。  
黒豆、アズキは平年並み。
- 4) ジャガイモ：品種はテジマ、メークイン、ダンシャクで、春作は出芽期の遅れにともない収穫期が遅れて入梅したため、腐敗球が多く著しく減収した。
- 5) タマネギ：品種はターボ、泉州黄。収穫期が梅雨期に入ったことと水稻移植と重なったため品質が低下した。

まとめ 収量は概ね計画を上回ったものの、天候不順や収穫・調整時の機械の不調等で品質低下により生産額は予定をやや下回った。また小麦、ジャガイモ、タマネギの収穫期と水稻の水田準備・移植作業が6、7月に集中し、各々の作物に十分な労力を割けなかったことが、今後の検討課題である。

### 3 直接費

作業農機具の老朽化により修理費がかさみ、農機具費の大半を占めた。

### 4 主要購入機器

揺動式耨摺機

# 機 械 研 究 室

## 1 昨年度の収支実績

### 1) 収 入

第1表 収 入 実 績

品 目	生 産 量 (kg)	生 産 額 (千円)
コ ム ギ	1,080	14

### 2) 支 出

第2表 支 出 実 績

費 目	金 額 (千円)
肥 料 費	53
農 業 薬 剤 費	188
光 熱 動 力 費	225
建物及び土地改良設備費	11
農 機 具 費	674
そ の 他 の 諸 材 料 費	256
そ の 他	73
計	1,480

農機具費のなかで、トラクタ類の車検・保険、特定自主検査に32万円を要しており、これは経営支出の22%を占めている。

## 2 生 産 概 況

### 1) コムギ

表-4区の圃場は例年1月にガンカモ科鳥類の大食害を被っている。生育の不齊一に加えて、強風による倒伏、選別・調製の不良で等級は最低であった。チクシコムギはわずか2作で奨励品種から外されることになったので、ニシカゼコムギに更新する。

### 2) クワ

カミキリの食害がみられたが、第5期摘桑まで生育良好で、遺伝子資源研究センターに十分な葉量を供給できた。

### 3 作業実績

機械受託作業, 援助作業, 機械貸出の実績

第3表 機械受託作業実績

作業名	研究室					計	比率(%)
	作物	畜産	施設園芸	部長	事務部		
耕起	1.00	25.99		0.50		27.49	15.10
耕耘	41.27	49.42		2.08		92.77	50.96
覆土・鎮圧	2.42	8.25				10.67	5.86
代掻	19.17					19.17	10.53
牽引運搬			1.00	2.00		3.00	1.65
作溝				1.09		1.09	0.60
草刈	4.67				6.00	10.67	5.86
整地				1.00		1.00	0.55
薬剤散布				6.00		6.00	3.30
掘削			1.33	0.42	3.67	5.42	2.98
その他			4.75			4.75	2.61
計	68.53	83.66	7.08	13.09	9.67	182.03	100
比率(%)	37.65	45.96	3.89	7.19	5.31	100	

単位; 人・時間

第4表 援助作業実績

作業名	研究室			計	比率(%)
	作物	施設園芸	部長		
収穫	5.00			5.00	20.00
出荷	6.00			6.00	24.00
エンジン修理		3.00		3.00	12.00
ガラス温室撤去		6.00		6.00	24.00
ビニルハウス設置			5.00	5.00	20.00
計	11.00	9.00	5.00	25.00	100
比率(%)	44.00	36.00	20.00	100	

単位; 人・時間

第5表 機械貸出実績

作業名	研究室						計	比率(%)
	作物	畜産	果樹	施設園芸	部長	事務部		
トラクタ	108.09	52.58		12.22			172.89	57.56
耕耘機	10.00			0.17	1.93		12.10	4.03
モア	3.00	2.50	11.00	31.50		9.10	57.10	19.01
動力噴霧器	3.00			29.17	6.84		39.01	12.99
バックホー	2.00	17.25					19.25	6.41
計	126.09	72.33	11.00	73.06	8.77	9.10	300.35	100
比率(%)	41.98	24.08	3.66	24.33	2.92	3.03	100	

単位；時間

- 1) 機械受託作業；182人・時間。対前年度9人・時間，5%増。作業別比率は例年通り耕耘（かくはん耕）が最も大きく，全受託作業の51%に及んだ。研究室別では，畜産研究室，作物研究室，部長，事務部，施設園芸の順で46%，38%，7%，5%，4%であった。
- 2) 援助作業；25人・時間。対前年度7人・時間，22%減。収穫をはじめ，水稻に関する作業がさらに減少し，かわって施設に関する作業が増した。
- 3) 機械貸出；300時間。対前年度175時間，37%減で，一昨年水準に戻った。

#### 4 主要購入機器

新規，更新ともなし。

#### 5 トラクタ類の稼働実績

機械研究室の主要トラクタ5台とバックホー1台について月別稼働実績を第6表に示す。表中の数字はアワメータによる使用時間である。前年度に比べて全体で91時間，13%減少したが，最も大型のトラクタ（73 PS）は使用時間が増加した。

#### 6 その他

##### 第8回耕耘研究会

ティラと和犁による犁耕技術の伝承と研鑽を目的として，農業機械学講座と共同で犁耕会を毎年開催してきたが，昨年度から耕耘研究会に発展させて公開実施した。

第6表 機械研究室保有のトラクタ、バックホーの稼働時間（アワメータ）

機 種	1988年												年 度 合 計	月平均
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
FE35X	0.0	1.5	0.3	5.1	0.5	3.3	1.0●	3.2	3.1	2.6	0.2	0.0	20.8	1.73
MF135	1.1	10.8	7.8	6.5	4.0	8.9	0.6	2.1	9.5●	3.5	1.5	3.6	59.9	4.99
SD4000	5.3	8.1*	21.3	8.2	4.9	11.9	9.3	13.6	6.3	1.4	3.3●	8.0	101.6	8.46
SE7340T	9.3	8.4	24.1*	12.6	17.9	18.0	21.9	13.2	6.4	0.0	5.3	13.3	150.4	12.53
TL1900	21.9	33.3	46.0	19.3	17.0	22.4	14.0*	6.3	6.9	0.0	6.3	7.8	201.2	16.76
10HT	0.0	5.3	7.1	3.1	5.5	8.6	2.4	1.6	21.7	7.9	8.0	16.5	87.7	7.30
計	37.6	67.4	106.6	54.8	49.8	73.1	49.2	40.0	53.9	15.4	24.6	49.2	621.6	
月別比率 (%)	6.05	10.84	17.15	8.82	8.01	11.76	7.91	6.44	8.67	2.48	3.96	7.91		

注) FE35X ; マッセイファーガソントラクタFE35X (45.5PS), 1964年10月購入,  
 MF135 ; " MF135 (48 PS), 1972年12月 " ,  
 SD4000 ; シバウラトラクタSD4000 (40 PS), 1979年2月 " ,  
 SE7340T ; " SE7340T (73 PS), 1982年2月 " ,  
 TL1900 ; キセキトラクタ TL1900 (19 PS), 1980年11月 " ,  
 10HT ; コマツバックホー10HT (50 PS), 1980年2月 " .

注) \* ; 修理, ● ; 車検, 特定自主検査

# 果 樹 研 究 室

## 1 昨年度の収支実績

第1表 収 入 実 績

作 物 名	生産量 (kg)	収 入 (千円)
早 生 温 州	18,370	1,587
巨 峰	508	227
マスカットベリーA	1,175	253
ウ メ	180	55
ナ シ	256	36
リ ン ゴ	257	39
そ の 他		24
計		2,221

第2表 支 出 実 績

費 目	金 額 (千円)
肥 料 費	140
農 業 薬 剤 費	182
光 熱 動 力 費	267
諸 材 料 費	206
建 物 設 備 費	1,372
農 機 具 費	2,849
雇 用 費	2,118
計	7,134

## 2 生 産 概 況

1) カンキツ：本園では今年は早生温州の表年であり、3年ぶりに生産高が高くなった。

第3表 最近5ヶ年間の早生温州の収量と品質

年度	生産量 (kg)	収量 (kg/10a)	糖度 (Brix)	酸 (%)	果実の大きさ別収量(%)				
					3 L	2 L	L	M	S
59	10,824	902	10.4	0.67	12	27	26	24	37
60	21,409	1,782	10.4	0.68	12	24	31	25	8
61	13,218	1,102	10.9	0.65	3	16	34	30	15
62	9,098	758	11.0	0.69	28	23	26	13	10
63	18,530	1,544	10.8	0.78	1	10	26	40	23

2) ブドウ：巨峰は開花期の長雨で有核果が少なくなりやや低収となった。ベリーAは粒の肥大が

第4表 最近5ヶ年間のブドウの収量と品質

年度	品	種	生産量 (kg)	収量 (kg/10a)	糖度 (Brix)	備	考
59	巨	峰	762	762	17.5	気象	生理障害
	マスカット	ベリーA	1,266	974	17.0	果実	生理障害
	ネオマスカット		50	400	13.5	ク	
	アレキサンドリア		133	1,330	16.5		
60	巨	峰	468	468	17.8	気象	生理障害
	マスカット	ベリーA	1,572	1,209	17.5	台風	害
	ネオマスカット		452	376	17.2	ク	
	アレキサンドリア		31	310	17.8	台風	害・害虫
61	巨	峰	634	634	17.5	気象	生理障害
	マスカット	ベリーA	1,592	1,447	17.4		
62	巨	峰	887	887	16.8	気象	生理障害
	マスカット	ベリーA	1,643	1,263	17.0		
63	巨	峰	508	508	16.9	気象	生理障害
	マスカット	ベリーA	1,174	903	16.8		

悪くやや低収。

3) ナシ(幸水)・リンゴ(ふじ・つがる)は収穫高が増えつつあり、ウメは一部伐採したため収量が少なくなった。

4) 品種保存樹では果実はすべて試験用に供試した。

### 3 作業実績

第5表 作業実績

内 容	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
通常勤務	56.0	55.0	58.0	58.5	62.5	57.0	56.3	59.0	6.3	41.0	36.0	40.0	642.3
超過勤務	22.7	22.6	19.5	20.3	13.7	16.8	21.5	17.8	12.1	7.3	15.4	7.4	196.1
教官補助	1.0	0.5	0.5	1.0	1.0	1.0	0.5	1.5	1.5	0.5	1.0	0.5	10.5
臨時雇用	28.0	36.0	40.0	3.8	40.0	38.0	40.0	54.0	60.0	54.0	57.0	60.0	545.0
計	107.7	114.1	118.0	117.8	117.2	112.8	118.3	132.3	136.6	102.8	109.4	107.9	1,394.9
(種類別)													
みかん	3.9	9.6	3.3	41.5	16.0	9.4	16.9	74.6	45.4	1.8	4.6	10.5	237.5
ブドウ	9.9	34.0	43.2	23.1	17.6	44.9	4.9	0.8	1.9	16.3	12.5	17.1	225.8
品 種	44.8	30.1	29.0	23.7	49.8	18.2	13.2	14.4	63.1	57.2	65.6	40.4	449.5
共 通	41.5	34.4	36.7	19.5	31.5	33.8	78.2	35.1	16.3	18.5	19.2	35.7	400.4
そ の 他	7.6	6.0	5.8	10.0	2.3	6.5	5.5	7.4	9.9	9.0	7.5	4.2	81.7

単位;時間

### 4 主要購入機器

- 1) パーソナルコンピューター (NEC・PC9801 RX) 1台
- 2) トラクター (乗用型草刈機) 1台
- 3) 特殊自動車 (ライガー4W) 1台
- 4) 自動車 (1500 ADバン) 1台
- 5) 電気泳動装置 1式

# 施設園芸研究室

## 1 昨年度の収支実績

### 1) 収入の部

#### (1) 生産物収入

昭和63年度の生産物収入の目標額は当初2,885千円を見込んだが、9月末の再調査の際に

第1表 作物別収入

作物	目標額	実績
キュウリ (春)	400,000 円	404,752 円
ク (秋)	300,000	297,018
温室メロン (春)	640,000	521,900
ク (秋)	420,000	552,100
セルリー	450,000	382,830
その他	70,000	47,961
小計	2,280,000	2,206,561
シクラメン	480,000	624,733
鉢物	125,000	208,972
小計	605,000	833,705
合計	2,885,000	3,040,266

2,616千円に修正した。しかし、年度末の実績は3,040千円で、年度当初の目標額を155千円超過した。

作物別では、キュウリはイギリスの温室型キュウリを主として栽培したが、春作・秋作ともに当初の目標額を達成した。

温室メロンは春作では120千円の減収を見たが、秋作では130千円の増収となり、合計額では年度当初の目標額を達成した。

セルリーは目標額を450千円見込んだが、382千円に終わった。

シクラメンは早咲き性シクラメンの選抜により、11月初旬からの早期出荷が出来たために、目標額を約150千円上回った。

#### (2) 貸鉢による移算

昭和63年度も学内の各部署より予算の移算を受けた。

第2表 貸 鉢 数 と 移 算 額

部 署	大 鉢		中 鉢		小 鉢	
	鉢 数	金 額	鉢 数	金 額	鉢 数	金 額
本 部	96	144,000 円	360	360,000 円	552	276,000 円
工 学 部	48	72,000	12	12,000	24	12,000
理 学 部	—	—	36	36,000	48	24,000
農 学 部	36	54,000	108	108,000	156	78,000
演 習 林	12	18,000	24	24,000	36	18,000
医 学 部	12	18,000	24	24,000	24	12,000
病 院	24	36,000	84	84,000	60	30,000
薬 学 部	—	—	12	12,000	12	6,000
文 学 部	—	—	24	24,000	—	—
法 学 部	—	—	36	36,000	36	18,000
経 済 学 部	—	—	24	24,000	24	12,000
教 育 学 部	—	—	36	36,000	—	—
電算機センター	—	—	36	36,000	36	18,000
中 央 図 書	12	18,000	12	12,000	12	6,000
小 計	240	360,000	828	828,000	1,020	510,000
合 計						1,698,000

## 2) 支出の部

第3表の支出額は年度当初から昭和64年1月末日までのもので、その後の2月、3月の2ヶ月分は資料の不足により、加算出来なかった。支出額は3,024,008円で、その中で最も高い割合を占めるものは雇用費で49.2%、次が諸材料費の28.8%、農機具費9.6%の順に低くなり、上記の3費目で全体の9割弱を占めた。

第3表 支出実績

費目	金額	割合
種 苗 費	89,260 円	3.0 %
肥 料 費	89,800	3.0
農 業 薬 剤 費	181,210	6.0
光 熱 動 力 費	3,000	0.1
諸 材 料 費	871,815	28.8
農 機 具 費	291,000	9.6
雇 用 費	1,488,000	49.2
そ の 他 費	9,923	0.3
計	3,024,008	100.0

## 2 生産概要

第4表 作物別生産量

作物	予 想	実 績
キ ュ ウ リ (春)	4,000 kg	3,962 kg
(秋)	3,000 ♪	2,278 ♪
温 室 メ ロ ン (春)	800 個	856 個
(秋)	700 ♪	897 ♪
セ ル リ ー	3,000 kg	2,840 kg
シ ク ラ メ ン	600 鉢	728 鉢
鉢 物	250 ♪	296 ♪

### 1) キュウリ

春作はほぼ予想収量を達成したが、秋作は720kg 下回った。

### 2) 温室メロン

春作、秋作ともに順調で、いずれも予想収量を大幅に超過した。特に秋作では200個も多く収穫した。

### 3) セルリー

予想収量を幾分下回ったが、ほぼ目標を達成した。

4) シクラメン及び鉢物

シクラメン及び鉢物ともに予想を上回った。

3 主要機器及び建物

1) 蒸留水製造装置 GS-20A

2) 5号温室の改築

# 畜 産 研 究 室

## 1 昨年度の収支実績

### 1) 収 入

63年度は62年度に比較し、約226万円増の915万円であった。その理由は牛乳生産量が13,000kg  
 第1表 収 入 実 績

品 目	生産量 (kg)	金 額 (千円)
牛 乳	66,465 kg	6,280
バ タ ー	27 個	6
卵	42.7 kg	5
肉牛及び廃牛	7 頭	2,549
山 羊	22 〆	310
計		9,150

### 第2表 支 出 実 績

費 目	金 額 (千円)
種 苗 費	100
肥 料 費	
農 業 薬 剤 費	71
光 熱 動 力 費	140
諸 材 料 費	432
賃借料及料金(機受)	686
飼 料 費	2,864
獣 医 及 薬 品 費	660
建 物 及 土 地 料	
農 機 具 費	148
教 官 研 究 費 費	257
そ の 他	
計	5,358

増加 (約140万円) したことで、肉牛・廃牛および山羊により増加 (約80万円) したためである。

### 2) 支 出

種苗費と肥料費は前年度くりこし分が残っていたため約130万円支出は減少した。

## 2 生 産 概 況

### 1) 牛 乳

乳牛10頭が分娩したため乳量は過去5年間で最高になった (第3表)。しかしながら分娩間隔は700日以上であるため、大幅な改善が必要である (第4表)。

第3表 年度別乳量

年度	1984	1985	1986	1987	1988
乳量(kg)	56,574	51,442	61,332	56,331	69,291

第4表 乳牛個体別分娩間隔および乳量

乳牛名	生年月日	産次数	分娩月日	前回分娩	間隔(日)	年間乳量(kg)
アルベルモント メドレーク	56. 6.28	2		1986. 7.30		5534.6
43 リアリー メドレーク	56. 6.16	3	1988.11.30	1986. 1.10	1,054	5103.7
スプリング ミソノ ジョイ	58. 8.18	2	1989. 1.28	1985.12.16	773	2999.0
リアリー ミソノ メドレーク	58. 8.25	2	1988. 6.11	1985.10.30	954	7189.5
ロイブルック R. テキサス	58. 3.26	3	1989. 1.19	1987. 2.16	702	4145.2
スプリング アイバンホー	57.10.12	2		1986. 8. 9		2991.8
アルベルモント L. M.	59. 4.21	1		1986. 6.15		2658.0
アルベルモント M. ファルコン	61. 7.30	1	1988.12. 9			2163.0
スプリング M. アイバンホー	60. 7. 4	1	1988. 2.24			6595.8
ロイブルック J. パレード	60. 2. 2	1	1988. 4.25			6530.8
アルベルモント B. D. F.	57. 7. 7	3	1988. 6.15	1985.12.25	902	5671.0
アルベルモント R. ベティー	57.12.29	2		1988. 1. 7		6486.2
リアリー R. コンフィダンス	54.10. 8	6	1989. 1. 1	1986.12.31	731	3952.8
リアリー S. リワード	58. 1.20	3	1989. 1. 7	1987. 1.11	726	3827.2
スプリング エレベーション	60. 1.19	1	1988.11.19			3444.0

## 2) 飼料作物

飼料作物の圃場別収量、月別収量および利用方法は第5、6、7表に示すとおりである。ライグラスの生産量が71t少なく、デントコーンも27t少ない。一方エンバクは40t多くなっている。これはライグラスの青刈給与を中止し、エンバクのサイレージに切り換えたためである。しかしながら、乾草が37tも少なくなっているため、今後はライグラスの乾草は最大限に利用するようにならなければならないと考える。

第5表 圃場別飼料作物別収量

圃場	ライグラス	エンバク	デントコーン	竜北グラス	計
鶴見 1		17,000	13,700		30,700
2	5,980	5,400	17,980		29,360
3					
4					
新園 2		9,430			9,430
4					
7	10,370				10,370
桑園 1		8,430			8,430
実験 1					
放牧 2					
3	6,730				6,730
表 2 1	5,250			3,650	8,900
旧園					
ポタ		3,500			3,500
計	28,330	56,930	31,680	3,650	120,590

単位 ; kg

第6表 月別飼料作物別収量

月	ライグラス	エンバク	デントコーン	竜北グラス	計
1987. 4	11,100				11,100
5	1,500	34,200			35,700
6	6,320				6,320
7			980		980
8			17,000		17,000
9			13,700	3,650	17,350
10					
11					
12		22,730			22,730
1988. 1	2,490				2,490
2	3,490				3,490
3	3,430				3,430
計	28,330	56,930	31,680	3,650	120,590

単位 ; kg

第7表 飼料作物別利用形態

飼料作物	青刈	サイレージ	乾草	計
ライグラス	22,010		6,320	28,330
デントコーン	980	30,700		31,680
竜北グラス	3,650			3,650
エンバク		56,930		56,930
計	26,640	87,630	6,320	120,590

単位；kg

3) 堆厩肥

厩肥生産量および堆肥利用量は第8表に示すとおりである。馬術部より引き取った36.6 tを加えると185 tとなり62年度とほぼ同様であった。利用率は約70% (132.6/185.8) であった。

第8表 厩肥生産および利用

年月	生産量 (馬術部)		鶴見2・3	鶴見4	新園4	実41	表21	桑1	その他	計
1987. 4	15.1		19.5			2.3			2.3	24.1
5	9.3									
6	14.0									
7	10.6	12.0								
8	7.9				15.0			12.0		27.0
9	11.6	9.0								
10	8.5		27.0							27.0
11	17.1	10.0								
12	15.6									
1988. 1	19.8	4.0							17.0	17.0
2	16.2									
3	23.3	1.6	7.5		16.5			13.5		37.5
計	149.2	36.6	54.0		31.5	2.3		25.5	19.3	132.6

単位；t